

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成29年5月19日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：松浦長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○松浦総務課長 それでは、皆様のお手元の広報日程に基づきまして、私の方から補足説明をさせていただきます。

2ページ目でございます。2ページ目の一番上、(2)番、5月22日月曜日の審査会合でございます。

議題は4つございまして、まず、議題の1番目でございます。こちらはJAEAの常陽につきましての適合性審査でございます。常陽については、本年の4月25日の審査会合におきまして、3月30日付で提出されました設置許可変更申請の概要の説明をJAEAの方から受けたところでございます。

その際、審査の前提条件である熱出力が設備と整合していないので、補正申請等により適切な資料が提出されるまで審査を保留することとしたところでございます。これを受けて、先日の原子力規制委員会の場でも、委員長及びその他の委員からも指摘があったところでございます。

このような状況を踏まえまして、今回、審査チームの方から、補正申請等による提出される資料に含まれると考えられる事項について紙で整理いたしまして、事務方の方からJAEAの方に説明する予定でございます。

続きまして、議題の2番目でございます。議題の2番目は、同じくJAEAの試験研究用原子炉HTTRについての審査会合でございます。こちらはいわゆる火山灰対策につきまして、JAEAの方からお話を伺う予定でございます。

続きまして、議題の3番目でございます。こちらもJAEAの試験研究用原子炉JRR-3につきまして、火山灰対策と竜巻影響評価についてお話を伺うとともに、保管廃棄施設についてもJAEAの方からお話を伺う予定でございます。

最後になります。議題の4番目でございます。こちらもJAEAの試験研究用原子炉NSRRにつきまして、安全上重要な施設の評価について、JAEAの方からお話を伺う予定でございます。

続きまして、5月23日火曜日、(3)番、平成29年度放射線対策委託費第1回研究推進委員会でございます。こちらは本年の4月12日の原子力規制委員会におきまして、当該推

進事業費の実施体制について、原子力規制委員会の了承を受けたところでございます。実施体制といたしまして、今回、第1回目の研究推進委員会が開催されるところでございます。

議題といたしましては2つございまして、今後の研究推進委員会の進め方について、また、議題の2番目といたしまして、現在公募をしております平成29年度の放射線安全規制研究戦略的推進事業費の事業につきまして、今後の審査方法及び評価手法について事務方から説明いたしまして、有識者を含め御意見を伺う予定でございます。

あと、最後になります。3ページ目の3.になります。委員の現地調査についてでございますけれども、(2)番目、田中知委員が5月26日金曜日にJAEAのもんじゅの方に出張されまして、現地調査をされる予定でございます。詳細についてはもう既に公表されていると思いますので、そちらの方を御覧いただければと思います。

私の方からは以上です。

<質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けしたいと思います。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問の方をお願いします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。

○記者 共同通信のスミです。

もんじゅの現地調査なのですが、廃炉に向けた準備が今ずっととまっている状況だと思うのですが、このタイミングで田中委員が現地調査をされる狙いとか目的を教えてください。

○松浦総務課長 先ほど申し上げましたように、今回、田中知委員は、初めてもんじゅの方に原子力規制委員になられて行かれると伺っています。もんじゅにつきましては、今後、廃止措置に向けて文部科学省及びJAEAの方で用意が進んでいると聞いておりますけれども、今後の作業として一番重要なのは、もんじゅの燃料取扱い施設、いわゆる燃料引き抜きについて、施設の整備に相当時間がかかるということでございますので、それらを中心に設備全体を改めて田中知委員が今後の廃止措置計画の認可に向けて確認したいということでございますので、いずれにしても、こういうプラントですので、現地を見てという委員の強い意向もございますので、このもんじゅだけではなくて、いろいろな設置変更許可についても、それぞれ委員が手分けして現地調査に行っていますので、その一環だと考えていただければと思います。

○司会 ほかに御質問はありますか。テレビ朝日のヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

言わずもがなの質問なのですが、常陽の件なのですが、この申請の審査が保留となり、補正を提出するという、これも異例なのですが、補正を提出する

中身について説明してあげるといふのも、当然、これは初めてのことになりますか。

○松浦総務課長 これまでのいろいろな原子力発電所の審査会合において指摘して、それが補正に反映されるということでやってきております。ただ、今回のようにまとめて紙でこちらから説明するといふのは、初めてかどうかは私も確認していませんけれども、かなり異例だとは思っています。

皆さん、4月25日の審査会合は、当然、公開ですし、傍聴された方もいると思いますけれども、その中で一番重要なのは、これは委員会で委員長、更田委員も言われていたけれども、熱出力と設備の整合性がとれていないというところがございます。先ほど説明したたとおりでございますし、あと、新規制基準への適合について、何点か申請書に足りない点があると。JAEA、そのほかの試験研究炉についても、既に審査会合が相当進んでいるところもございますけれども、そういった経験が反映されていないというところがございますので、事務方として整理いたしまして、足りないところを指摘して、補正申請なりにつなげていただきたいと思いますといふことで、こういった会合で紙を用意して事務方から説明するといふことでございます。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに質問はありますか。

ないようであれば、これでブリーフィングを終了したいと思います。どうもありがとうございました。

—了—